

学会の委員会に所属するということ

中川 伸 Shin Nakagawa
日本精神神経学会理事

今期より理事に就任いたしました中川伸と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私自身は2017年から代議員を務めていたものの、同年後期に山口大学に異動したこともあり、委員会活動などを積極的に行う余裕もなく、ひたすら目の前の事柄をこなしておりました。2021年6月に新たに理事として選任され、約1年が過ぎたこととなります。混乱しつつも、少しずつ内容を把握し、理事としての責任も実感してきているところです。

日本精神神経学会は代議員総会を最終決定の場とし、理事会の下に各種委員会があります。委員会は学術・教育、専門医制度、精神保健・医療・福祉、法・倫理、国際・出版・広報、庶務の6つの部門に分けられ、それぞれ16, 11, 13, 4, 3, 10個の委員会が存在します。合わせますと63の委員会があることとなります。また、学術・教育、専門医制度、精神保健・医療・福祉部門には委員会に付属してそれぞれの部門に5, 5, 4個の作業班、検討班または調査班があります。現在は最小3名から最大68名で構成されている77ものグループがあることとなり、のべ1,000名ほどの方が委員会活動に従事されていることとなります(いずれも2022年3月末日時点)。これらは時代のニーズにより新設されたり、活動が停止されたりと流動的です。私は現在、先に挙げた6部門で11の委員会に所属させてもらっています。各委員会いろいろな特徴がありますが、多くのエキスパートの先生がいらっしゃることに感心させられ、幅広い領域の精神科医療を勉強させてもらいつつ、学会の活動の一部を担っていることとなります。ここでは所属するすべての委員会を取り上げることはできませんので、その1つとしてeラーニング編集委員会の活動をご紹介します。

eラーニング編集委員会は2019年に発足した比較的新しい委員会です。それまでにもeラーニングのコンテンツはありましたが、コロナ禍でもあり、さらにその有用性が

再認識されているのではないのでしょうか。10年ほど前からeラーニングが専門医単位と結びつき、精神科薬物療法研修eラーニングで多くの方の目に触れるようになり、認知症診療スキルアップ講座eラーニングなど内容が充実してきております。また、学術総会教育講演を生涯教育委員会がeラーニング化してきており、毎年新しい内容のコンテンツが増えていっています。2022年6月現在、eラーニング編集委員会などからの提案によるコンテンツは26、生涯教育委員会から112、司法精神医学委員会から1、精神療法委員会から2、認知症特別委員会から22、精神科薬物療法研修運営委員会から12と総計175のコンテンツがホームページ上からご覧になれます。Web配信は便利ではありますが、思わぬところに拡散して誤解される危険性をはらんでいます。そのため倫理的配慮がとても重要になりますが、本委員会の事務局を担当していただいている先生にチェックをお願いしております。大変に労力のかかるものであり、誌面をお借りして感謝申し上げます。本委員会はコンテンツを総合的、計画的に分類し、不足しているテーマの拡充、内容をアップデートしていくことを方針としています。情報過多の時代であるからこそ良質のコンテンツがより重要になります。今後、精神科専門医、専攻医、初期研修医、医学部生などそれぞれ受講対象のニーズに即したテーマのコンテンツを各委員会、学会員の声を聞きながら整理し、重要な補助教材になればと思います。また、アクセスのしやすさ、理解しやすい構成なども重要かと思えます。ホームページをご覧になり、良いアイデアがあれば是非ともお聞かせください。

学会ホームページなどからどのような委員会があるのかは確認できます。構成員が公募される委員会もあり、興味がある委員会活動を学術総会のシンポジウムなどでご覧になることをお勧めします。